

## サロンでの気づき

サロンを訪問させて頂き、気づいたこと、聞いたことなど、お伝えしたいと思います。何かお役に立てれば嬉しいです。

お盆も過ぎましたが、まだまだ暑い日が続きます。

さて、夏休みですが、石川県の千里浜(ちりはま)ドライブウェイと、福井県の永平寺に行ってきました。千里浜は、学生時代にクラブの後輩と旅行に行ったところで、車で砂浜を走ることができるのは日本でここだけです。(全長約8km)潮風を受けながら波打ち際を走るのは爽快です。車から降りて、夕日の沈む海に素足を入れて、夏の終わりを感しながら、少しさみしい気分になりました。



永平寺は、山の中にあり、一面を苔に覆われ、樹齢700年に近い杉の大木が天高くそびえています。永平寺では、曹洞宗の修行僧(雲水)が入山し、厳しい修行に日々励んでいます。



雲水たちにとっては、衣食住全てが修行であり、その生活は、私達が過ごしている日常とはあまりにもかけ離れたものでした。

寝る場所も畳一畳しか与えられず、布団を二枚交互に重ねて紐で筒をつくり、その中に入って寝る。寝返りも許されません。

食事や入浴・お手洗いなどの時は声を出さない。食事は音を立てない。

また、掃除も大事な修行の一つであり、お寺のお手洗いは隅々まできれいに掃除されており、廊下も素足で歩くと、とても気持ちが良いほどきれいに磨かれています。このような様々な苦行の中で悟りを開いていくそうです。

子供たちは「こんな生活無理じゃし」と言っていますが、お寺に行ったことにより、シャンとした気持ちになれたのではないかと思います。

続きまして、亀山先生の勉強会で3月から学んでいる「言志録」から2つご紹介させていただきます。

### ●言志録第百四十八条

信を人にとる事難(がた)し

人は口を信ぜずして躬(み)を信じ

躬(み)を信ぜずして心を信ず、是を以て難し

(訳)

人の信用を得ることは難しい

どれだけうまいことを言っても、人は言葉を信用するのではなく、その人の行いを信用する。いや本当は行いを信ずるのではなく、心を信ずるものである。だから人に信用を得ることは難しい。

信一真

どんなに飾った言葉で取り入ろうとしても、真がなければ信もない。

相互信頼とは…己を相手に預けること。

心身共に預けることができる。人権、契約を越えた人間関係が大切。(人間性の尊重)

会社においては

上司は…部下に義務として一方的に押し付ける×  
口先だけ×  
身を以て範を垂れなければならない。

部下は…上司の率先垂範の根底にある真を信じる。

上司の人情の機微に透徹しているからこそ  
付いてくる。

上司の飾り言葉、優しい行為ではなく→「愚か者！」と叱りとばしてくれる。人の心こそが、最も信頼出来るもの。

上に立つ者が、部下の信頼を得るには、口ではなく、心なのだ。極く当たり前のことだが、ある意味、人として最も難しいもの。

### ●第百四十九条

臨時の信は、功を平日に累(かさ)ね

平日の信は、功を臨時に収む

(訳)

突発的な出来事を上手く処理して信用を得、それが土台となって常日頃の信用が増して行く。

また、常日頃の信用が時に臨んで功を顕(あらわ)すこともある。

例えば取引において

- ・返らないことを承知で、身銭を投げ出してくれる人がどれ程いるだろうか。
- ・逆に、身銭を投げ出してでも助けたい人がどれだけいるだろうか。

人は、人柄にお金を出すもの。  
積み重ねて来た信用は、一朝有事(ひとたび事件がおこる)の時に目に見えた形となって現われて来る。

「小さな約束を守りなさい！」  
意外にも守らない。

人は、「大切な約束、どうしても必要な約束」は破ったり  
忘れたりほしないもの。  
他愛のないことだからこそ「まあ、いいか！」と考える。  
「平日の信云々・・・」につながっている。

約束をきちんと守る人、誠実な人  
↓  
だから、信用を増す。

昨日と今日で言うことが違っても平気な人  
思いつきをすぐ行動に移してしまう人  
思ったことを片っ端から口に出してしまう人  
↓  
せつかく得た信用も剥がれてしまう。

毎日、小さな約束を積み重ねる  
↓  
大きな仕事を得る。

コツコツと積み上げて来た信によるものが多い筈。  
信頼とは嘘のない人間関係

相手の機嫌を取ろうとする  
公私混同を起こす  
己の失敗を隠そうとする  
→嘘をつく原因

「騙された」と思うと即座に信頼関係が敵意に変わる。

### 「平生往生(へいぜいおうじょう)」

日常の積み重ねが、いざという時に、人からどう扱われるかに出るものである。

今回の「言志録」は胸にグサッと刺さりました。  
今月も一日一日コツコツと頑張ります。

### ●今月のおすすめ本

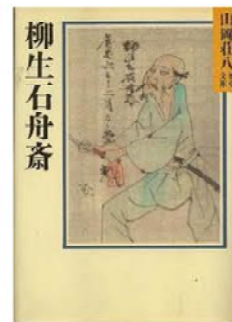


THE BOOKS  
365人の本屋さんが  
どうしても届けたい「この一冊」  
定価:1,575円(税込)

### ●内容

本を一番よく知る本屋さんが「この本だけは、どうしても届けたい」と思う一冊を、直筆の手書きキャッチコピーと、本屋さんならではのエピソードとともに紹介。巻末には本書に登場する365店のMAPも掲載、書店ガイドとして本屋巡りのお供にもオススメ。

「本が好きになった！」という方、「もともと本が好きだったけど、もっと好きになった！」という方で、日本中を包み込みたいなあ。  
本にかかわる私たち全員のそんな願いとともに、本を愛する皆さまとこれから本が好きになる皆さまへ、心からの感謝をこめて本書をお贈りいたします。(はじめにより



この本の中に、いつもお世話になっている山の中の本屋さんウィー東城店の佐藤店長も紹介されております。

紹介されていた本は  
「柳生石舟斎」山岡荘八著です。

この本をお求めになりたい方はお申し付け下さい。商品と一緒にお届けさせていただきます。  
※お届けまでに少し時間がかかることがあります。ご了承下さいませ。